

今年度は、今までになく嬉しい年でありました。軟庭当部にとって最も喜ぶべき選手の大活躍があったからです。

全日本高校女子個人で土浦二高の吉田照美、緑川純子組が第3位、関東高校男子個人で銚田一高の大川秀一、磯部利男組が準優勝の輝しい成績をあげ、大木、二重作組（銚田一）、鶴田、宮崎組（水戸農）、久保田、浅野（水戸農）の男子、女子の飯田、坂根組（土浦二）の本大会の上位進出。

又学校対抗での水戸農高、土浦二高の関東第3位、国体男子の3回戦（第9位）初進出等もり沢山でした。こゝしばらく本大会での3位以上の成績がなかっただけに貴重です。土浦二の吉田、緑川組は2年生の時から頭角を現わし関東で第5位、その沈着で安定したプレーは抜群です。銚田一の大川、磯部組は共に2年生、県中学の選手権チームで一年生時から大型選手として期待を集めていました。この期待に見事に答えてスピードあるテニスに成長したのは、本人達の努力と周囲の人の暖い指導の賜でしょう。こゝ2・3年来本県の高校テニスは手前味噌でなくレベルが上って来たと思います。これ一重に各学校の先生方の熱意と、関係者の御協力のもとに第4回を迎えた強化合宿又は国体強化合宿等の効果も出て来たようです。

しかしこの強化対策は、もうこれで良いんだと言うものでなく、より良い方法を考えて行かねばなりません。問題の資金面も少ない部予算をそりいじ

めなくとも、今回の第2回の募金で県内のテニスの理解者、関係者から御協力頂いて明年度の上半期位まで大丈夫でしょう。特に今年後半はピックアップチームで、県外との練習試合を予定しましたが、日程が合わず役員の方と相談の末、新機軸の選抜チームによるインドア大会を開催、単なる試合でなく、ゲームを通して、どこをどのように、どのような練習方法でしたらよいか、その診断書を作成してもらいます。反面底辺拡大には未だ十分手段が尽されていませんが、明年度は各地区単位に一般選手の強化対策を考慮中です。

この他重要なこととして、年度内の各大会を再検討して、絞れるものなら絞って大会を一つでも減らしたいと考えています。明年度は10月のスポーツの日に県民総合体育大会が行なわれる予定とのことなので、現状のまゝなら、大会が一つ増加することになります。シーズン前半は地区予選、県予選と毎日曜となり休む間もなく、選手も先生方も相当の重荷でないかと思えます。大会は多ければ多い程強くなる筈だとの考えもあり、この問題は慎重に1月末の役員会で相談する予定です。規定のマーク、テニス靴、ユニホーム等、もっとテニスの大事なコートマナーとして厳しくする必要がありそうですが、各学校、各選手が自覚して頂けたらと思います。ともあれ今年の実績を礎として、明年はもう一步高くへ選手、先生方と共に努力したいと思います。

軟式庭球部記録

第10回春季大会 5月1日

於 水戸県営・水農・水二・水三

1	大木・二重作(銚一)	4
7	篠田・宮崎(勝工)	0
11	菊地・鈴木(一商)	3
19	渡辺・鈴木(多賀)	4
24	黒沢・後藤(日一)	4
25	井坂・三井(海一)	2
30	柴・直井(結一)	4
39	小川・和田(水農)	3
40	大川・石田(鹿島)	4
47	丹治・直井(水農)	0
50	後藤・飛田(緑岡)	4
59	鈴木・塩原(日一)	3
60	山中・菊地(石一)	4
69	高和・宇野(水一)	1
70	大羽・工藤(館一)	3
79	鶴田・宮崎(水農)	4

男子 優勝 大木・二重作(銚一)

80	和地・小室(日一)	4
85	屋代・広瀬(玉造)	2
93	根本・永山(麻生)	4
98	蛭田・増子(一商)	3
102	野口・酒井(土三)	4
104	深谷・鈴木(結一)	2
109	針谷・山中(古一)	1
118	大川・磯部(銚一)	4
119	中根・仲沢(竜一)	3
128	服部・吉田(茨城)	4
129	佐藤・斉藤(日一)	2
138	栗原・山崎(緑岡)	4
143	張貝・中村(取二)	2
148	山中・皆川(妻一)	4
149	豊田・田野崎(磯原)	1
158	久保田・浅野(水農)	4

1	飯田・坂根(土二)	4
5	木村・五位淵(小瀬)	1
8	渡辺・生沼(結二)	4
15	山本・内田(石二)	3
18	黒沢・石川(日二)	4
21	大内・望月(水二)	0
25	寺田・香取(土二)	3
31	海老原・豊岡(銚一)	4
32	池沢・箱守(妻一)	4
39	佐藤・斉藤(多賀)	1
43	前島・今泉(麻生)	2
47	五十嵐・氏家(銚二)	4
48	家田・内田(土二)	0
55	宮本・鶴田(麻生)	4
59	鯉沼・神田(妻二)	0
63	富岡・鬼越(日二)	4

女子 優勝 吉田・緑川(土二)

64	篠崎・篠崎(妻二)	4
71	益子・鈴木(子二)	2
72	白田・高柳(銚二)	4
79	神永・大平(高萩)	2
80	松田・菊池(竜二)	4
87	小林・鈴木(日二)	3
90	茂木・小室(銚一)	3
95	加納・谷田(麻生)	4
96	村井・石川(館二)	4
103	渡辺・小峯(磯原)	0
104	名島・木村(竜二)	1
111	長峯・酒寄(銚一)	4
112	田中・照沼(水三)	1
119	鈴木・神山(妻二)	4
120	岩淵・飯村(結二)	0
127	吉田・緑川(土二)	4

新人戦ベスト16組推薦、各校3組以内の申込みで行なわれた本大会、男子15.8組、女子12.7組で行なわれた。男子第一シードの篠田一大木、二重作組は負けなく優勝、針田一高は本大会初優勝。女子は第一シードの土浦

二が準決勝にて日立二の富岡組に敗れたが、第二シード同じく土浦二の吉田、緑川組優勝のゲームで優勝。昨年の土浦二飯田、磯原組に引続いて二連勝を飾った。

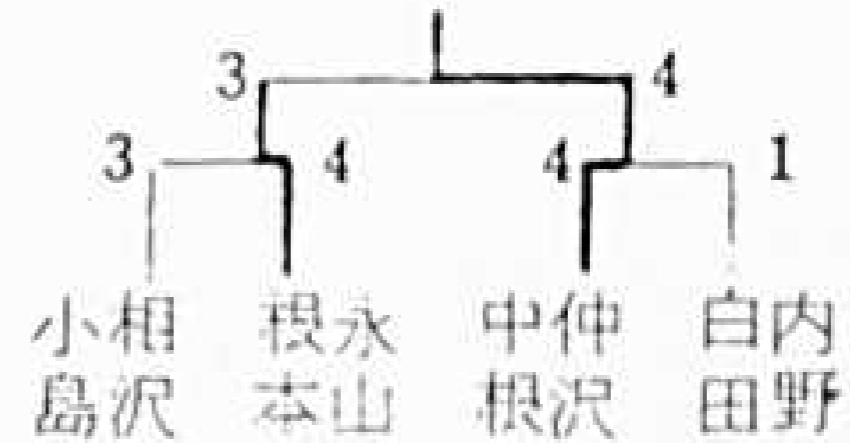
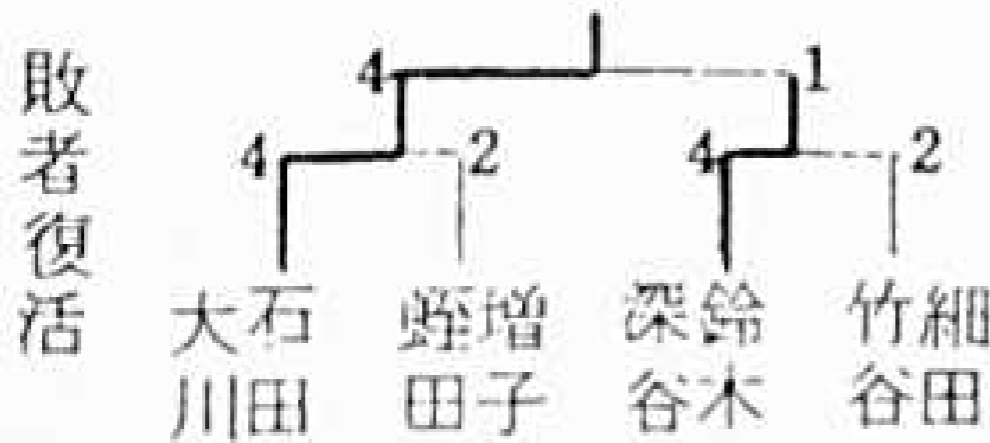
全日本高校(個人)県予選

6月19日 於 県営コート

- 1 大木・二重作(銚一)
- 6 蛭田・増子(一高)
- 7 鶴田・宮崎(水農)
- 10 白田・内野(鹿島)
- 13 和知・小室(日一)
- 18 深谷・鈴木(結一)
- 19 後藤・飛田(緑岡)
- 24 大川・石田(鹿島)

男子優勝 久保田・浅野(水農)

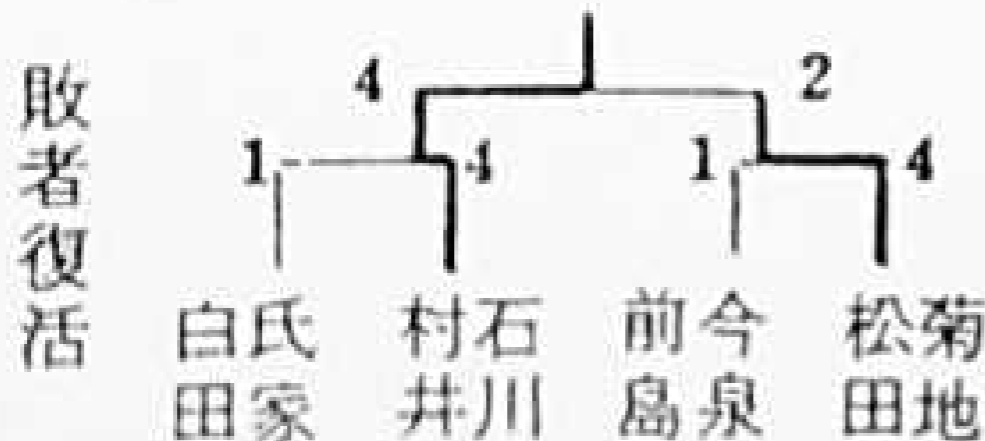
- 25 久保田・浅野(水農)
- 29 小島・相沢(水商)
- 31 根本・永山(麻生)
- 36 野口・酒井(土三)
- 39 中根・仲沢(竜一)
- 41 海野・吉田(水一)
- 45 竹谷・細田(取一)
- 48 大川・磯部(銚一)



- 1 飯田・坂根(土二)
- 4 高橋・枝(館二)
- 7 富岡・鬼越(日二)
- 10 家田・内田(土二)
- 13 村井・石川(館二)
- 18 黒沢・石川(日二)
- 20 海老原・豊岡(銚一)
- 24 白田・氏家(銚二)

女子優勝 飯田・坂根(土二)

- 26 高橋・淀縄(館二)
- 30 篠崎・篠崎(妻二)
- 32 水野・宮本(水二)
- 34 前島・今泉(麻生)
- 37 宮本・錫田(麻生)
- 42 松田・菊池(竜二)
- 43 五十嵐・高柳(銚二)
- 48 吉田・緑川(土二)



男女共, 前大会のベスト8の推薦8組と, 各地区予選通過(8組×5地区)の合計48組にて県代表10組を争った。

男子は第4シードの鹿島高が代表決定戦で敗れ, 敗者復活戦にて浮んだ以外は大体順調。然し関東県予選で1, 2位, 又前日の学校対抗戦で待望久しい県代表の栄冠を獲得した銚田一高チームが, 関東予選の時と全く同じく, 学校対抗戦で涙を呑んだ水戸農高の久保田組と鶴田組に, それぞれ敗れたのはどうしたことか。団体戦をとった後ではっと気落ちしているのだろうか。今年の男子個人, 学校対抗は一寸いつもと違ひ。結局決勝戦は水戸農高の同志討ち, 今シーズン調子をあげて来た

久保田, 浅野組が優勝, 水戸農は38年に次いで二回目の優勝。他に健闘良く緑岡高の後藤組, 水戸一高の海野組, 竜ヶ崎一高の中根組が県代表となった。

女子は下館二高の村井組と日立二高の富岡組が敗者復活戦で代表権獲得の他は予想通り。決勝は前大会と同メンバーの土浦二高同志, スコアも大体同じく前大会に引続き飯田組の優勝, 土浦二高は4年ぶり5回目の優勝。

他に雌伏していた水戸二の水野組が奮闘良く3位, 又ダークホースぶりを発揮した土浦二の家田組, 下館二の高橋組が良く自己の力を出し県代表入り。

男女共今年度はレベルが高いので県外大会での活躍が大いに期待できる。

男子予選リーグ上位成績

- A ① 大川・磯部(青田一) 5勝1敗
- B ① 大木・二重作(津田一) 5勝
- C ① 久保田・茂野(水戸二) 5勝1敗
- D ① 嶋田・宮崎(水戸二) 4勝
- E ① 白井・戸村(津田一) 4勝
- F ① 栗原・山崎(緑岡) 5勝1敗

- ② 井坂・島田(石岡一) 5勝1敗
- ② 小川・和田(水戸二) 2勝1敗
- ② 栗谷・鈴木(結城一) 5勝1敗
- ② 小沢・山中(古河一) 5勝1敗
- ② 大川・石田(鹿島) 2勝2敗
- ② 白田・小堀(鹿島) 5勝1敗

女子予選リーグ上位成績

- A ① 吉田・緑川(土浦二) 4勝
- B ① 飯田・坂根(土浦二) 5勝
- C ① 仲村・小野(土浦二) 4勝
- D ① 家田・内田(土浦二) 5勝1敗
- E ① 高老原・豊岡(津田一) 4勝1敗
- F ① 篠崎・篠崎(下妻二) 4勝

- ② 高橋・枝 (下館二) 3勝1敗
- ② 高橋・淀崎(下館二) 3勝2敗
- ② 渡辺・生沼(結城二) 2勝2敗
- ② 黒沢・石川(土浦二) 3勝1敗
- ② 川和・菱沼(日立二) 4勝1敗
- ② 小林・鈴木(日立二) 5勝1敗

男子決勝リーグ

	水戸二	津田一	緑岡一	津田二	水戸二	勝点	勝ゲーム	順位	備考
久保田・茂野		3	2	2	④	2	1	13	5
大木・二重作	④		2	④	④	1	3	15	4
栗原・山崎	④	④		2	④	2	3	16	3 県代表
大川・磯部	④	1	④		④	4	4	17	2 県代表
白井・戸村	0	3	1	3		1	0	8	6
嶋田・宮崎	④	④	④	3	④	4	19	1	県代表

女子決勝リーグ

	土浦二	下妻二	土浦二	土浦二	土浦二	勝点	順位	備考
仲村・小野		2	0	1	2	④	1	5
篠崎・篠崎	④		1	2	④	④	3	3 県代表
吉田・緑川	④	④		④	④	④	5	1 県代表
飯田・坂根	④	④	2		④	④	4	2 県代表
家田・内田	④	3	0	2		④	2	4
高老原・豊岡	1	2	0	2	1		0	6

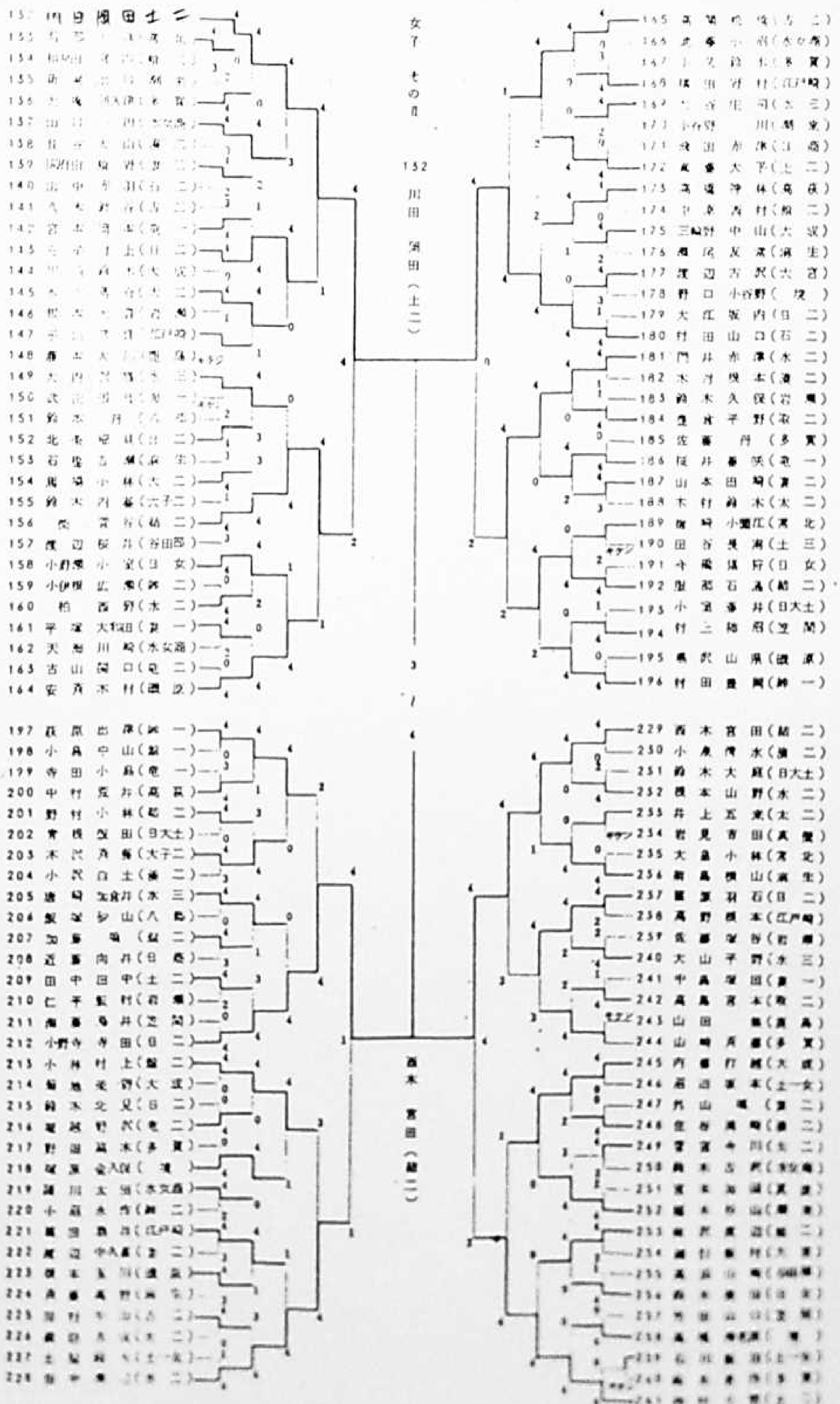
男女共各地区予選通過2組、それに推薦組を加え、男子29組、女子32組で予選リーグが行なわれた。男子では大勢戦ながら土浦三の野口組が落ち、津田一の白井、戸村組が良く奮闘しシード組を破って決勝リーグに進出。

女子ではシード組の日立二の富岡組、黒沢組、麻生の宮本組が共に振わず、代って新人戦第三位であった下妻二の篠崎組が盛りかえし、又土浦二の仲村、小野組、家田、内田組、津田一の高老原、豊岡組が良く頑張る決勝リーグ入り。決勝リーグ男子では特に県代表が道原本大会に出場できるだけあって総戦からエキサイトしたゲームを展開、意外にも県代表候補の筆頭であった大木組、久保田組が調子です。優勝決定は嶋田組と自分の力を出し切った栗原組で争われ

た。大川組は最初から安定したテニスで同一校の大木組に破れたのみの2位。3位は結局同率ながら勝ゲーム数の多い緑岡高栗原、山崎組が入り、大木組は涙を吞む結果となった。女子は終始安定し、実力抜群の土浦二の吉田組、飯田組が1.2位は予想どおり、3位にどこが入るかと思われたが、新人戦のあとあまりバットしなかった下妻二の篠崎、篠崎組が調子を取戻し、なばりのあるテニスで県代表となり、3位までが県代表として9月19.11日に行なわれる関東ブロック予選に出場する。

男子水戸3度目、津田一2度目、緑岡は初の県代表としての出場。女子は土浦二は3度目、下妻二は2度目の県代表出場である。

41年度  
奨励賞





新人大会

○男子準決勝

大川 (銚) 磯部 (一)	4	$\begin{pmatrix} 4-0 \\ 4-2 \\ 5-3 \\ 4-2 \end{pmatrix}$	0	井坂 (石) 島田 (一)	丹治 (水) 直井 (農)	4	$\begin{pmatrix} 5-3 \\ 5-3 \\ 2-4 \\ 4-1 \\ 4-2 \end{pmatrix}$	1	秋山 (水) 会沢 (農)
------------------	---	--	---	------------------	------------------	---	---	---	------------------

男子決勝

大川 磯部	4	$\begin{pmatrix} 4-0 \\ 5-3 \\ 5-3 \\ 4-0 \end{pmatrix}$	0	丹治 直井
----------	---	--	---	----------

男子三位決定

井坂 島田	4	$\begin{pmatrix} 4-2 \\ 5-3 \\ 4-2 \\ 5-3 \end{pmatrix}$	0	秋山 会沢
----------	---	--	---	----------

○女子準決勝

西木 (結) 宮田 (二)	4	$\begin{pmatrix} 4-2 \\ 2-4 \\ 4-1 \\ 5-7 \\ 1-4 \\ 4-2 \\ 7-5 \end{pmatrix}$	3	川田 (土) 岡田 (二)	渡辺 (磯) 小峯 (原)	4	$\begin{pmatrix} 4-1 \\ 2-4 \\ 4-0 \\ 3-5 \\ 6-4 \\ 5-3 \end{pmatrix}$	2	渡辺 (結) 生沼 (二)
------------------	---	---	---	------------------	------------------	---	--	---	------------------

女子決勝

西木 (結) 宮田 (二)	4	$\begin{pmatrix} 4-1 \\ 5-2 \\ 4-2 \\ 1-4 \\ 3-5 \\ 5-3 \end{pmatrix}$	2	渡辺 (磯) 小峯 (原)
------------------	---	--	---	------------------

女子三位決定

渡辺 (結) 生沼 (二)	4	$\begin{pmatrix} 9-7 \\ 4-2 \\ 2-4 \\ 3-5 \\ 4-2 \\ 4-2 \end{pmatrix}$	2	川田 (土) 岡田 (二)
------------------	---	--	---	------------------

県内大会最大のこの大会、全日本大会等に匹敵する参加数、1000名を越す有様、昨年同様2日間にわたり会場を男子は県営、水戸農高、緑岡高の11面、女子は土浦市営、土浦二高の9面を使って行なわれた。

毎年この大会は雨に悩まされて来たが、今年は幸いにも好天に恵まれ、予定どおり終了。

男子では第一シードの大川、磯部(銚田一)が圧倒的強さで、失ったゲームはわずか8試合中3ゲーム、敵するものなく楽に優勝、昨年の大木組に続いて銚田一の二連勝。三位まで関東親善インドアの県代表となるだけに熱戦が展開、第七シード丹治、直井(水戸農)は二回戦で大苦戦をした以外楽に進み準優勝、3位決定戦は強化合宿以来調子を上げて来た石岡一の井坂、島田組と健闘よく第11シードながら勝ち進んだ水戸農の秋山、会沢組、石岡の強打、又前衛の動きよく石岡の楽勝。

女子は第一シードの家田、内田(土浦二)が6回戦で準優勝の磯原に大接

戦の末ファイナルで敗れ、結局優勝は第15シードになる結城二の西木、宮田組、このチームは今まであまり目立たない状態であったが、強打特にバックのストロークの自信に満ちたミスしてもこわがらない後衛のプレー、軽快な前衛と大型チームである。結城二は5年ぶり二度目の優勝。第2位は第16シードの磯原高渡辺、小峯組、つなぎ球のうまいていねいなゲーム振りで第一シードを破りその勢いで準優勝、磯原の上位進出は初めてのことで、これからの活躍が期待される。第3位は既に関東の県代表にもなっている第2シード渡辺、生沼(結城二)と名門土浦二高の苦境を支える川田、岡田組、中盤までせり合ったが渡辺組のうまいテニスに凱歌があがる。

総じて今年の特徴は、男女共新設校のチームが進出して来たことで、男子の石岡一を筆頭にキリスト教学園、常北、波崎、水戸工、女子の磯原、太田二など来年の活躍を楽しみにしたい。